

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2026年2月2日(月)～8日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、みことばによって主を食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

今週は再び民数記を読んでいきます。

2月2日(月)

今日の聖書日課：民数記 13:25～33

そのとき、カレブがモーセの前で、民を静めて言った。「私たちはぜひとも上って行って、そこを占領しましょう。必ず打ち勝つことができます。」

民数記 13:30

約束の地カナンを偵察に行った12人の族長たちのうち10人は「偵察して来た地について、イスラエルの子らに悪く言いふらし」ました(32)。「ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があって非常に大きく、その上、そこでアナクの子孫(巨人族)を見ました。」(28)。「勝てっこない!」と。しかしヨシュアとカレブは違いました。冒頭の聖句を見てください。カレブは騒ぎ立つ民を静めて言いました。「必ず打ち勝つ」と。これは根拠のない自信ではありません。カレブは主がモーセに告げられたことばを聞いていました。「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナンの地を偵察させよ。」(2)。

ちゃんとみことばを聞いていますか？心を主に向けて聞いていますか？

2月3日(火)

今日の聖書日課：民数記 14:1～25

この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。

民数記 14:19

主のみことばの約束があったにもかかわらず、目の前の現実には翻弄され、エジプトに帰ろうとし、モーセを下ろして別のリーダーを立てようとしたイスラエルの民。そんな彼らについて主は「わたしは彼らを疫病で打ち、ゆずりの地を剥奪する。しかし、わたしはあなたを彼らよりも強く大いなる国民にする。」(12)と言われました。これに対してモーセが主に答えたことばが冒頭の聖句。

この民といっしょでなければ意味がない。それがモーセの考えでした。

2月4日（水） 本日は祈祷会。朝 10：30 から教会で、19：30 からはオンラインで。

今日の聖書日課：民数記 14：26～45

翌朝早く、彼らは山地の峰の方に上って行こうとして言った。「われわれはここにいるが、とにかく主が言われた場所へ上って行ってみよう。われわれは罪を犯してしまったのだ。」

民数記 14：40

モーセのとりにしによって、主はイスラエルを全滅させることはしませんでした。しかし主は当時 20 歳以上であった兵士たちはヨシュアとカレブ以外はみな約束の地に入ることにはできない、と言われました。これから始まる 40 年の荒野の旅において全員が荒野に屍をさらす、と。そしてあの 12 人の族長のうちヨシュアとカレブ以外の 10 人が疫病で死にました。

イスラエルの民は嘆き悲しみました。そこで彼らがとった行動が冒頭の聖句。モーセは「主があなたがたのうちにおられないのだから」（42）と言ってそれを止めようとしたましたが、彼らは聞かず、突き進み、結果、アマレク人とカナン人に討たれました（45）

すぐ動く。良いことのように思えますがその前にしっかり聞く。聞いて、従う。これが大切です。

2月5日（木）

今日の聖書日課：民数記 15：1～21

主はモーセにこう告げられた。「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたに与えて住まわせる地にあなたがたが入り、」

民数記 15：2

民の不信仰によって始まった荒野の 40 年の旅。その初めに主がモーセに言われたことは、民が約束の地に入った時に献げるべきものについての教えでした。主はついさっき、20 歳以上の兵士は 40 年の間にみな屍をさらす、と言われたのに。

モーセは、そしてモーセのことばを聞いた民はどう思ったのでしょうか？たとえそうだとしても、イスラエルは主の民として約束の地、ゴール目指して歩むのです。

2月6日（金）

今日の聖書日課：民数記 15：22～41

すると、主はモーセに言われた。「この者は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で打ち殺さなければならない。」

民数記 15：36

安息日に薪を集めている男が見つけれられました（32）。この男について主はモーセに語られました。上記のごとく。これを聞いた「全会衆は主がモーセに命じられたように、その人を宿営の外に連れ出し、石で打ち殺した。」（36）。

旧約の神は怖いと言われます。イエスは姦淫の現場で捕らえられ石打ちになりそうになった女について「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」（ヨハネ 8：7）と言われ彼女は救われました。実はこの中で罪のない者、すなわちイエスだけはこの女に石を投げる事ができました。しかし主は言われました「わたしもあなたにさばきを下さない。」（ヨハネ 8：11）。なぜか？彼女の代わりにご自分が十字架で死なれることを主は知っておられたから。十字架こそ究極のさばきであり、恐怖でした。新約の「やさしいイエスさま」は、私たちの罪の身代わりに神に罰せられたお方なのです。

2月7日（土）

今日の聖書日課：民数記 16：1～19

モーセはこれを聞いてひれ伏した。

民数記 16：4

民の反抗のとき、いつもモーセがしたこと。ただ主の前に出ること。

2月8日（日）詩篇 119：17～24「みことばを聴き続けよう」創立 73 周年記念礼拝です。